

第5回広陵町ごみ減量等推進審議会 議事録概要

■ **開催日時** 令和6年2月6日（火）午前10時～午前11時30分

■ **開催場所** リレーセンター広陵 3階 研修室大

■ **出席者**

<委員> 10人（欠席5人）

<町・事務局> 4人

■ **次第**

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）について

4 その他

5 閉会 次回開催日の日程について

■ **配布資料**

会議次第

座席表

委員名簿

広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）

■ 議事内容

3 議事

- ・（1）広陵町のごみ減量対策等の取り組みに関する諮問事項についての答申（案）について

（事務局）

前回の第4回の審議会でいろいろなご意見やアドバイスをいただいたことを踏まえて、事務局で変更した箇所について説明させていただく。

（事務局での変更点の説明）

（会長）

今、事務局の方から全体の説明があり、その全体的なことを含めてこのこれまでのごみ減量化に向けた取り組み、行動計画を評価と効果の項目について、何かご意見があればお願いしたい。

（委員）

今回が初めての審議会ではない。クリーンセンターができるときに有料化も含めて減量化推進審議会が開催されたわけで、こんなふうにやってみようという答申案が出されて、だからこれまでどういうことがあったという話があった。

「ここは良かったのにここは悪かったね、だから次はこうして行きましょう。」というストーリーが無ければと思う。今度の審議会の答申でそれに関しては今おっしゃられたように、5ページに何行かあるが、この程度しかやって来なかったのかというのがまず一つ素朴な疑問である。前回の答申の17ページの住民、事業者、行政の各役割が、今までやってきたことであると思う。そこで、前回の答申で表示された各役割項目がどの程度実現できたのかの部分が必要ではないか。各役割についてどう実現できたのかを検証することが必要である。

(事務局)

これまで詳細な検証はして来なかったので、実際できたことを書かせていただいた。

(部長)

前回の答申の14ページ、15ページに照らし合わせて、もう少し深掘りして具体的に書かせていただきたいと思う。

今回初めて参加させていただいた中で、率直に申し上げさせていただくと、前回の答申の14ページ、15ページで具体的なごみ減量化に向けた行動計画ということで色々な事項が挙げられている。明確な検証ができていなかったということであるが、現実には人口も増えているけれども、ごみは増えてない状況であるので、何らかの形で必ずやってきたはずである。それは明確な検証ではないけれども、もう少し前回の答申に照らし合わせて、どういうことがされてきたのかを書くことは可能ではないか、ご指摘あった部分についてはもう少し深掘りできるのではないかと考えている。可能な範囲で調べさせていただいて、それは当然行政だけではなくてごみを出される住民の方々のご協力、ご理解があつてのことでもあるので、その辺りをもう少し書ければと考えている。少し検討させていただきたい。

(委員)

5 ページ目のこれまでの取り組みの「生ごみ処理機・コンポスト等の普及促進のため購入補助」について、具体的な数値と現状も続けていることを書けば良いと思う。

(委員)

6 ページ目今後の取り組みについて、「広陵町は、・・・・・(SDGs)の達成に向けた優れた取組を行う都市」の優れた取組は具体的に何をしてきたのか。

(部長)

SDGsには、環境、経済、社会の3つの大きな分野があり、広陵町はそのうち経済の分野について認定を受けた。認定を受けた当時、広陵町は地域経済の循環が上手くいっておらず、エネルギー消費については地域で地産地消してお金が循環する仕組みができないか検討した。

(委員)

農業関係に携わっていて、ごみ減量については生ごみ(作物)の堆肥化、脱炭素化として野焼きをしないことを推し進めた。

(委員)

可燃ごみの組成分析の結果について、水分が49%あり、紙も半分くらいと多い。県内市町村でも生ごみ処理機購入の助成をしているところが多い。雑紙も資源ごみに回収していくようにできればと思う。例えば他市町では千葉県松戸市で、雑紙に加え、包装紙、紙袋、カレンダー、トイレトーパーの芯も回収している。

(委員)

農業マルチ等の廃プラの処理について、農家の方に年1回の持ち込みまで待って取っておいてもらうよう農家に周知している。その処理の負担割合は農家、農協、町が1/3ずつで、町と一緒に取り組んでいる。

(委員)

何故コンポスト、生ごみ処理機の購入が進まないのか。補助の手続き、補助金額を明らかにしていけば補助申請しやすくなり、購入が進むと思う。

資源ごみについて、スーパーの入口とかに設置してある回収ボックスに持って行ったら良いのか、役場の資源ごみの回収の日に出したら良いのか。基準は無いと思うが、どちらの方が良いのか思うところである。

(委員)

7ページ目の、①住民の役割、②事業者の役割、③行政の役割について、それぞれの役割を文書でつらつらと書いてあり非常に見づらい。この状態だと審議会委員も含め読んでもらえないかなと思う。だから前の答申も読まずにこういう要望も出てきたのかなと。それぞれの役目の間の流れが分かるように、もうちょっと見やすくすべき。

(会長)

表とか、図とか、イラスト等やフローで表現したら分かりやすいと思う。

前の答申までこれまではこうやって来たとして、今後これについては継続してしますという流れが分かる表現ができないのかなというのが全体的に1点。

生ごみ処理機補助金出していると言いながら、この答申の文面に補助を出している文言が無い。そのあたり明確にされたらと思う。前回の答申では集団回収の文言があったが、今回の答申では削られている。何故無いのかと思う。言葉の表現で、今はレジ袋運動等でレジ袋を出すところは無いというのが1点。ごみの意識に対する向上が不可欠であるとか、何か上から目線の言葉であると思う。前の答申であれば、意識改革をするというふうに書いてある。文章的にも練ったものにしていただければどうかという感じがする。

(副会長)

生ごみの減量については水分を減らすことが一番有効である。ごみの量・重さが増えるとその分町の費用が増え、町民負担も税金として増えることになると思う町長も言及されている。

これは住民各家庭の個人的な責任であると思う。行政はもちろんそうだけれど、生ごみを出すのは各家庭なので、まず私が実践しているのは水分を減らすためにまず天気の良い日は干す。網の粗いざるを買っているのだからそれに広げる。そうすると本当に水分が切れる。生ごみも減る。今までは週に2回出していたけれど今は1回である。

レシートであるとか封筒の端であるとか、そういうものは刻んで1つの袋に入れて資源ごみに出すようにしている。これは行政の問題ではなくて、生ごみの問題は住民の問題であると確信している。もっと住民の方々に生ごみを減らそうという運動を、私たちごみ減量推進員でもっと推進していかないとなかなか取り組んでいける問題ではないということをお心している。皆さん1人1人が責任を持って生ごみを減らすということの実践をしていきたいと思う。

(委員)

広陵町は他の市町村より非常に良い制度がある。自治会等で資源ごみを回収する制度があり、回収資源毎に各自治会・子ども会毎に資源回収を行い、各自治会・子ども会の方に資源回収の重さによる補助金制度がある。この回収の重さによって町から補助金が出るとこれが非常に大きく、各自治会、子ども会にとって大きな資金になっているのが現状である。うちの自治会では2、3年でや

り始めた当初の2、3倍集まった。自治会にとっては非常に大きな資金になったので、他の市町村と比べ非常に大きな成果があると思う。

(委員)

農業関係で肥料がどんどん高くなってきている中で、町が苦勞されている生ごみの回収で堆肥化していけば生ごみも減り、住民も行政も助かって堆肥もできて、一石三鳥になると思う。そういうことを組織でやっていってもらえればどんどん生ごみも減っていくかと思う。

(委員)

企業、業界にとってごみはコストであり、すべてお金を払って処分しないといけない。業界でもごみを減らすとかこういった話がある前から取り組んでいることであると思う。よく大量に作って大量に捨てるというニュースがあったけれども、今はそのようなことは聞かない。当然売り切れる量を作って捨てることはまずしないし、肉とか魚とか野菜とかを捨てることはない。うちの店舗ではないし、他の企業でもないし、業界でも恐らくないと思う。トレイの回収とかその他回収できるリサイクル素材は再利用する方法で企業も進んでいて、その他の雑ごみ、一般ごみも極力減らす方向に進んでいる。コストになるので、できる限り減らす方向には考えていこうと思っている。

(会長)

行政の役割にかかる部分は次回に議論する。企業の役割は次回以降に議論していこうと思う。

(委員)

ごみ減量、ごみ分別の両方があり、2つの柱になっている。きっちり分別していれば、それぞれスムーズな処理ができる。きっちり分けてもらうことができるよう組成分析で水分量が分かるが、何が混入しているのかも分かる。混入していたものが何か明らかにした上で、混入したものの量・割合が分かったらその結果を踏まえて、その混入したものはこれで出してもらうというような啓発の仕方がある。一般論としてもあると思うが、広陵町では実際の状況を調べてみればこうなっているのでこれはこう分別してくださいね、というような支援を行政はしていかないと。また、事業者の方はもろにお金にかかってくるので、我々もごみ袋代がかかってくるけれども、事業者の方は元々経営上の問題になるから、ごみの分別や減量は非常に細やかにされている。大量排出者の大きなスーパーがどういうふうに現に分別されているか見せてもらうのがベストだと思う。以前イトーヨーカドーの見学に行ったが、非常に細かく住民ができないくらいの分別をされていて、非常に経費削減をされている。

(会長)

ごみ分別はごみ減量に繋がるので、これは次回以降で議論していきたいと思う。

(委員)

有料化検討事例はいただいたが、他市の成功事例はどうか？

(会長)

有料化検討事例でそれはあると思う。

(会長)

本日は第5回目の審議会であり、町長より審議会に対して広陵町のごみ減量対策の取り組みに関する諮問があり、議会より議決された3点について、引き続き答申できるよう審議会で議論していきたいと思うのでよろしくお願いする。

4 その他 次回開催日の日程について

(事務局)

次回の開催日について、4月2日は町会議員の選挙等もあるのでその前になる。3月26日の火曜日
でお願いします。

(以上)